

田中 實

D：福島県会津東山温泉コース

このコースを選んだのは、風評被害の実態を知りたかったからである。

被害を受けている方々が、どう対処しようとしているのか、我々に出来ることは何か、現地の皆さんの生の話を聞いてみたかったのだが、それ以上に衝撃を受けたものがあった。それは、現地での「勉強会」の席上で福島県校友会の幹事の言われた次のような事だ。

会津若松地域は、福島県にあるがために、風評被害を受け、農作物は売れない。観光客は来ない。そのため、収入が減って、生活に支障を来している。

一方、この地域に避難して来られ、仮設住宅等で生活されておられる人達がおられるが、この人達には補償金等が支払われ、仕事もないので、一日中ぶらぶら、パチンコ屋へ出入りし、夜には飲み屋へ顔を出す。その様子を見聞きしている地元の人達は、こうした避難者に冷たい目を向けている。

「仮設の人達は……」と非難めいたことを言っている。怖い話だ。

今回の避難者に対する保障の実態はよく知らないが、こうした話が出ているということは、被害者に対する補償額等に大きな差があるということだろう。この差をどう埋めていくのか、金銭なのか、それとも心情的なものなのか。悪くなれば福島県民は二分されてしまう。

何とかならないものか。こうした悲痛な声を聞きながら、いまだに多くの人達が苦しんでいることを実感したツアーであった。